

# 漁況予報 い わ し

## 第214号

【2019年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

### = 概 況 =

#### 【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は52トンで、前年(35トン)及び平年<sup>※1</sup>(15トン)を大きく上回りました。一方、6月は73トンで、前年(168トン)および平年(119トン)を大きく下回りました。2か月合計では125トンで、前年(203トン)を大きく下回り、平年(134トン)並でした。

相模湾側では、まき網で餌イワシとして断続的に漁獲していました。

なお、早期発生群（前年11～12月生まれ）のヒラゴ（被鱗体長<sup>※2</sup>8～13cm）が漁獲されはじめました。

#### 【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は102トンで、不漁であった前年（79トン）を上回りましたが、平年（302トン）を大きく下回りました。6月は27トン（速報値）で、前年（84トン）および平年（335トン）を大きく下回りました。2か月合計では129トンで、前年(163トン)を下回り、平年(637トン)を大きく下回りました。

なお、鴨居地区および佐島地区のまき網では、餌イワシとして断続的に漁獲していました。

魚体は、9～11cmの小型成魚主体でした。

#### 【シラス】

相模湾のシラス漁は5月に入り、藤沢以東、三浦半島西岸にも漁場が広がり、それまでの極端な西高東低の漁場の偏りが解消し、6月にかけて相模湾内全体で漁場の形成がありました。

この原因として、黒潮の大蛇行の影響により、相模湾内では、時に時計回りの流れに変わり、反時計回りの循環流が弱まったことが原因ではないかと考えられます。全体漁獲量（標本船データより推定）は、5月は前年および平年とほぼ同等（前年比1.0倍、平年比1.0倍）で、6月はほぼ前年並みでしたが平年の6割に留まりました（前年比0.9倍、平年比0.6倍）。

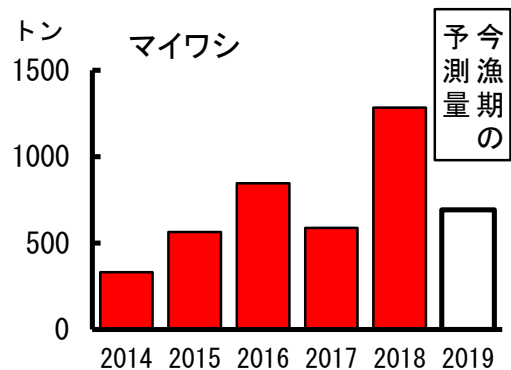
## = 予 報 =

### 【マイワシ】

今漁期は、2019 年生まれの小羽マイワシ（10～14cm）が主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年(1,284 トン)を下回り、平年(724 トン)並の約 690 トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

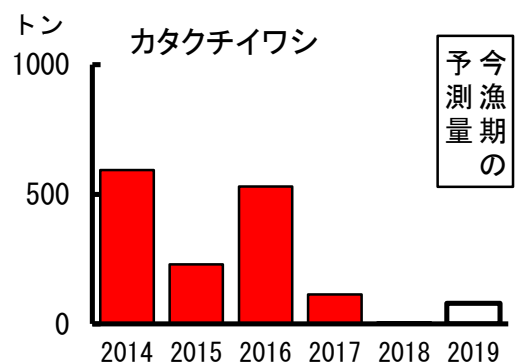


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

### 【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚量は、著しい不漁であった前年（7 トン）を上回り、平年(295 トン)を大きく下回る約 80 トンと予測されます。



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

### 【シラス】

今漁期は、6 月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年(46 トン)を大きく上回り、平年(74 トン)並の約 91 トンと予測されます。

